

# 東京兵庫県人会「ふるさとツアー」旅行記

## ●新神戸駅を出発

平成28年10月1日(土)、2日(日)、ふるさとツアーに初めて参加しました。

集合時刻の10月1日(土)午前10時30分少し前、勇んで集合場所の新神戸駅へ。そこへ太田颯衣幹事長ら女性陣が到着し、一気に賑やかかつ華やかな雰囲気。参加者13名が全員そろったところで、バスに乗り込み、出発。一路篠山市へ向かいました。

## ●兵庫陶芸美術館から西山酒造場

最初の訪問場所は、篠山市の兵庫陶芸美術館。開催中の特別展「セラミックス・ジャパン—陶器でたどる日本のモダニズム」を見学。明治維新から第2次大戦まで約70年間にデザインされた、様々な陶磁器を鑑賞しました。館内で皆さんそろって記念撮影した後バスへ。

昼食会場は丹波市のイタリアンレストラン「テラドローノ」。保育園を改装したシンプルな建物で、ボリュームあるピザランチなどをいただき、満腹になりました。

次に、清酒「小鼓」で知られる丹波市の西山酒造場へ。ここで、まず案内されたのは井戸。竹田川の伏流水だと言う水は酒造りに適した超軟水とのこと。やはり酒造りには水が一番大切なんですね。次いで女性従業員も働く酒造場を見学した後、待望の試飲となり、しばらくたてのお酒をいただきました。すっきりした味わいでした。

## ●我が懐かしき篠山城址

初日最後は、篠山城址。私事ながら、篠山城は、40数年振り。懐かしい。城址内では、大書院を見学。ガイドさんによると、篠山城は、大坂の陣に先立つ慶長14年(1609年)、徳川家康が山陰道の要衝であるこの地に豊臣方包囲網として築城されたとのこと。学術調査に基づいて復元された大書院は、京都二条城にも比肩される大型木造建築で、その中で最も格式が高い上段の間は狩野派による障壁画などもある豪華な空間で、復元後は時代劇の撮影にも使われるとのことでした。

篠山城の見学を終えて、宿泊地の王地山公園篠山荘

へ。天然温泉「まけきらいの湯」に入った後、夕食会。当県人会会長菅谷定彦様から差し入れのお酒や、この日の見学先や各人の出身地の話などなどで大いに盛り上がりました。

## ●篠山市から丹波市高源寺へ

翌2日は、ささやま荘を出て、まず、河原町妻入商家群へ。街並みを見学。次いで、兵庫県丹波県民局長さんにお出迎えいただき、商家群内の篠山能楽資料館と丹波古陶館を見学。その後、次の訪問地丹波市の高源寺へ向けてしばしバスを走らせました。

高源寺は、鎌倉時代に建立された臨済宗の名刹です。紅葉の名所として有名です。時間の関係もあり、中には入らず、惣門の前で、ボランティアガイドの案内を受け、付近で写真を撮ったりしました。もっともこのわずかの間に石段を登って芭蕉の句碑を見学された健脚もおられましたよ。

## ●養父市へ。そして明延鉱山一円電車

高源寺を後にして、昼食場所の養父市道の駅ようか但馬蔵へ。但馬蔵では、地元養父市市長広瀬栄様、同地域選出で現在県議会議長藤田孝夫様にお出迎えいただき、養父市のお話など伺いました。食事の後、市長さん、県会議長さんと記念撮影をして道の駅を出発。最後の訪問地、明延鉱山に向かいました。

かつては日本一の錫鉱山として栄えた明延鉱山。今回は、まず鉱石の搬出や従業員等の移動に使われた鉱山電車「一円電車」の試乗をしました。わずか70メートル程度の試乗でしたが、その狭い車内、小さな窓は往時をおおいに偲ばせるものでした。その後、かつては約4000人が暮らしたという明延鉱山北星社宅を見学し、予定の訪問を全て終え、解散場所の新神戸駅へと向かいました。

やはり同郷あるいは兵庫県に愛着をお持ちの方々とのふるさと巡りは他にはない、心安らぐ旅でした。お世話いただいた皆様、一緒に参加した皆様、本当にありがとうございました。

安田博延(県人会員)

